

事業説明シート 8 庁内課所室再配置事業(新規)

部局課所 財政部管財課
 総合計画 5章 自ら考え主体となって参加する開かれたまち
 7節 行政能力の強化・市民サービスの向上
 4項 行政サービスの向上
 重点テーマ 0 -

| | |
|--|--|
| 【 事業の目的】 市民サービスの向上と庁舎狭隘の解消のため、福祉棟の建設を進めているが、これに伴う庁内課所室の再配置を行い、一階に各種行政サービスの窓口を集中配置しワンフロアー化を図るなど市民サービスの充実に努める。 | 【 事業の対象】 市民、職員 |
| 【 全体事業概要】 課所室再配置 ・内容 間仕切りの撤去・新設およびOA機器の移設等 (市長執務スペースの1階への新設および市民情報公開室の新設を含む) | 【 新年度事業概要】 全体事業概要に同じ |
| 【 備考】 対象部局：総務部、企画調整部、財政部、市民生活部、建設部、都市開発部、収入役 庁舎面積 本庁舎 9,744㎡(1F 2,084㎡) 議場棟 3,233㎡(1F 537㎡) 福祉棟 1,384㎡(1F 642㎡) 庁内課所室再配置等検討委員会で検討中 ・本庁舎および分館の課所室の再配置の検討 ・本庁舎および分館の利便性向上のための具体的対応の検討(案内表示を含む。) | 【 国県施策名】 【 国補助率】 【 県補助率】 【 起債充当率】 |

事業評価シート 8 庁内課所室再配置事業(新規)

| | |
|---|--|
| 【 事業手法・推進体制等見直しの余地(コスト削減、費用対効果向上)】 ● 無 ○ 有 | |
|---|--|

| | |
|------------------------|-------------------------|
| 【 民間事業との競合】 ● 無 ○ 有 | 庁舎としての活用であり民間事業とは競合しない。 |
|------------------------|-------------------------|

| | |
|--|-----------------------------|
| 【 住民ニーズ、行政需要の動向】 ● 増加傾向 ○ 不変 ○ 減少傾向 | 窓口業務の集中化や待合スペースの増大等が望まれている。 |
|--|-----------------------------|

| | |
|------------------------|-----------------------------------|
| 【 市が今行う必要性】 ○ 無 ● 有 | 今年度から一部再配置を実施しており引き続き事業実施するものである。 |
|------------------------|-----------------------------------|

| | |
|------------------------------------|--|
| 【 事業外部の条件整備(関連事業等)】 ● 問題無 ○ 要配慮 | |
|------------------------------------|--|

| | | | | | |
|------------------|---------------------------------|-------|-------|-------|-------|
| 【 事業成果(アウトカム)指標】 | | | | | |
| 指標 | ワンフロアー化による1階に設置している窓口課の床面積増加率 | | | | |
| 選定理由 | 窓口課の集中化による市民サービスの充実がはかられるため | | | | |
| 計算・推計方法 | 本庁舎・議場棟・福祉棟の1階面積 / 本庁舎・議場棟の1階面積 | | | | |
| 留意事項 | | | | | |
| 指標の推移 | H13年度 | H14年度 | H15年度 | H16年度 | H17年度 |
| 目標 | | 24.5% | | | |
| 実績 | | | | | |

事業説明シート 11 税関係証明書自動交付システム(新規)

部局課所 財政部市民税課
 総合計画 5章 自ら考え主体となって参加する開かれたまち
 7節 行政能力の強化・市民サービスの向上
 4項 行政サービスの向上
重点テーマ 7 IT革命に伴う社会変化への対応

| | |
|--|--|
| 【 事業の目的】 夜間・休日における証明書の取扱いを可能にし、市民生活の多様化に即した行政サービスの利便性向上を図る。また、証明書交付事務の効率化による来庁者の待ち時間短縮および窓口の混雑解消を図る。 | 【 事業の対象】 住民基本台帳カード所有者 |
| 【 全体事業概要】 平成15年8月の住民基本台帳ネットワークシステムの事務開始に合わせ、住民基本台帳カード(ICカード)の市町村独自機能として住民票等とともに税関係証明書の自動交付を可能にする。 ・自動交付機導入台数3台(平成15年8月稼働) (本庁、土崎支所、新屋支所各1台) ・平成16年以降、拠点センターへの交付機導入を検討するとともに、全市的にバランスのとれたワンストップサービスの実現をめざす。 | 【 新年度事業概要】 ・既導入市の運用状況調査 ・各証明書の様式(記載事項)の見直し ・既存システム内の改造 ・自動発行システム構築 ・データ移行 等 |
| 【 備考】 住民票等自動交付システム(市民課)への追加機能として導入する。 | 【 国県施策名】 【 国補助率】 【 県補助率】 【 起債充当率】 |

事業評価シート 11 税関係証明書自動交付システム(新規)

| | |
|---|--|
| 【 事業手法・推進体制等見直しの余地(コスト削減、費用対効果向上)】 | |
| <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> 有 | 企画調整部、市民生活部との連携が必要不可欠 |
| 【 民間事業との競合】 | |
| <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 有 | 納税証明書交付事務は地方税法に基づく自治事務である。また、行政サービスとして交付している所得証明書についても、個人情報等プライバシー保護の観点から納税証明書とともに本市が交付すべきものである。 |
| 【 住民ニーズ、行政需要の動向】 | |
| <input checked="" type="radio"/> 増加傾向 <input type="radio"/> 不変 <input type="radio"/> 減少傾向 | 市民生活の多様化にともない、開庁時間外における税関係証明書の取得要望がある。 来庁者の待ち時間短縮および窓口混雑の解消につながる。 |
| 【 市が今行う必要性】 | |
| <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/> 有 | 住民基本台帳カードを利用した住民票等自動交付システム(市民生活部)への追加機能として導入することにより、本市ワンストップサービスの一層の充実が図られる。 |
| 【 事業外部の条件整備(関連事業等)】 | |
| <input type="radio"/> 問題無 <input checked="" type="radio"/> 要配慮 | ・住民基本台帳ネットワークシステム ・住民票等自動交付システム 上記システムの事務開始が前提となる。 |
| 【 事業成果(アウトカム)指標】 | |
| 指標 | 証明書発行件数に占める自動交付機利用数の割合 |
| 選定理由 | 利用増を事業成果を計る指標とするため |

| | | | | | |
|---------|--|-------|-------|-------|-------|
| 計算・推計方法 | | | | | |
| 留意事項 | I Cカードが必要になるので、その発行枚数に依存する。 12年度税関係証明書発行件数(67,177件) | | | | |
| 指標の推移 | H13年度 | H14年度 | H15年度 | H16年度 | H17年度 |
| 目標 | | | 1.1% | 3.5% | 5.2% |
| 実績 | | | | | |

| | | | | | |
|-------------------|--|--|--|--|--|
| 【事業成果指標・備考】 | | | | | |
| ・自動交付機における証明書交付件数 | | | | | |
| ・繁忙期における証明書交付時間 | | | | | |

03財政 11

事業説明シート 13 法定外公共物等国有財産譲与申請事業(継続)

部局課所 財政部用地調査室
 総合計画 1章 環境と調和し快適に暮らす魅力あるまち
 1節 土地利用計画と都市計画の推進
 1項 土地利用計画の推進
 重点テーマ 0 -

| | |
|--|---|
| <p>【 事業の目的】 「地方分権一括法」の施行により、国有財産である里道、水路等の法定外公共物のうち、現に機能を有するものが市町村に譲与され、地域住民の生活に密接に関連する公共物として機能管理および財産管理を自治事務とすることとなり、その譲与申請を平成16年度までに行うものである。 また道路法および下水道法が適用となる里道、水路等についても併せて譲与申請を行うものである。</p> | <p>【 事業の対象】 市全域（460.10km²）に所在し、次に該当する里道、水路等の調査特定および譲与申請を行う。 国有財産特別措置法第5条第1項第5号（法定外公共物） 道路法第90条第2項（市町村道） 道路法第94条第2項（廃道） 下水道法第36条（公共下水道等）</p> |
| <p>【 全体事業概要】 全市を3ブロック（北、中央/西、南/東）に分割し、H14～H16の3ヶ年で調査特定作業および譲与申請手続きを行う。 また事務の軽減、効率化を図るため、公図をデータ化し運用するコンピューターシステムの活用を図るとともに、公図データの作成等の調査特定のための準備業務を外部委託する。</p> | <p>【 新年度事業概要】 北、中央地区の調査特定作業および譲与申請手続きを行う。</p> |
| <p>【 備考】 外部委託 12～13人の職員も必要</p> | <p>【 国県施策名】 【 国補助率】 【 県補助率】 【 起債充当率】</p> |

事業評価シート 13 法定外公共物等国有財産譲与申請事業(継続)

| | | | | | |
|---|--|--------------|---|--------------|--------------|
| <p>【 事業手法・推進体制等見直しの余地(コスト削減、費用対効果向上)】</p> | | | | | |
| <p>○ 無 ● 有</p> | <p>この事業は平成16年度までの完了を要し、また専門性を有する事業のため、関係業務に精通した職員の増員や外部委託の範囲の拡充を図る必要がある。</p> | | | | |
| <p>【 民間事業との競合】</p> | | | | | |
| <p>● 無 ○ 有</p> | | | | | |
| <p>【 住民ニーズ、行政需要の動向】</p> | | | | | |
| <p>● 増加傾向 ○ 不変 ○ 減少傾向</p> | | | <p>譲与される財産は、地域住民の生活に密接に関連する公共物であり、市の所有となることによって、その整備等に係るニーズが増加することが考えられる。</p> | | |
| <p>【 市が今行う必要性】</p> | | | | | |
| <p>○ 無 ● 有</p> | | | <p>この事業は「地方分権一括法」の施行による関連法令の改正により、平成16年度までの完了を要する。</p> | | |
| <p>【 事業外部の条件整備(関連事業等)】</p> | | | | | |
| <p>● 問題無 ○ 要配慮</p> | | | | | |
| <p>【 事業成果(アウトカム)指標】</p> | | | | | |
| <p>指標</p> | <p>公図枚数に対する処理公図枚数の割合</p> | | | | |
| <p>選定理由</p> | <p>客観的に進捗状況を把握できるため</p> | | | | |
| <p>計算・推計方法</p> | <p>処理公図枚数 / 公図枚数（約9,000枚）</p> | | | | |
| <p>留意事項</p> | | | | | |
| <p>指標の推移</p> | <p>H13年度</p> | <p>H14年度</p> | <p>H15年度</p> | <p>H16年度</p> | <p>H17年度</p> |

| | | | | | |
|----|--|-----|-----|------|--|
| 目標 | | 40% | 80% | 100% | |
| 実績 | | | | | |

〔事業成果指標・備考〕
 他の指標として、本市の行政面積（460.10km²）に対する処理地域面積などが考えられる。

事業説明シート 14 地籍調査準備経費(継続)

部局課所 財政部用地調査室
 総合計画 1章 環境と調和し快適に暮らす魅力あるまち
 1節 土地利用計画と都市計画の推進
 1項 土地利用計画の推進
 重点テーマ0-

| | |
|--|---|
| 【 事業の目的】 地籍図、地籍簿を整備することにより、公共事業の円滑化、土地の権利関係の明確化、災害時の復旧の円滑化及び課税の適正化等を図るもの。 | 【 事業の対象】 市全域(460.1k㎡) 調査対象面積(約360.0k㎡) |
| 【 全体事業概要】 一筆ごとに所有者、地番、地目調査並びに境界、地積に関する測量を行い、その結果を地籍図および地籍簿とするもの。 | 【 新年度事業概要】 調査区域の把握および関係機関との協議を行う。 |
| 【 備考】 | 【 国県施策名】 地籍調査事業 【 国補助率】 50% 【 県補助率】 25% 【 起債充当率】 |

事業評価シート 14 地籍調査準備経費(継続)

| | |
|---|--|
| 【 事業手法・推進体制等見直しの余地(コスト削減、費用対効果向上)】 ● 無 ○ 有 | |
|---|--|

| | |
|------------------------|--|
| 【 民間事業との競合】 ● 無 ○ 有 | |
|------------------------|--|

| | |
|--|---|
| 【 住民ニーズ、行政需要の動向】 ● 増加傾向 ○ 不変 ○ 減少傾向 | 境界紛争等土地に係るトラブルの未然防止や土地取引の円滑化、公共事業の円滑化、まちづくりの計画立案や災害時の復旧に貢献する。 |
|--|---|

| | |
|------------------------|---|
| 【 市が今行う必要性】 ○ 無 ● 有 | 国土調査促進特別措置法に基づく国土調査事業十箇年計画により、地籍調査を促進する必要がある。 |
|------------------------|---|

| | |
|------------------------------------|--|
| 【 事業外部の条件整備(関連事業等)】 ● 問題無 ○ 要配慮 | |
|------------------------------------|--|

| | | | | | |
|------------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 【 事業成果(アウトカム)指標】 | | | | | |
| 指標 | なし | | | | |
| 選定理由 | | | | | |
| 計算・推計方法 | | | | | |
| 留意事項 | | | | | |
| 指標の推移 | H13年度 | H14年度 | H15年度 | H16年度 | H17年度 |
| 目標 | | | | | |
| 実績 | | | | | |

| |
|--|
| 【 事業成果指標・備考】 事業内容が、調査準備に係る経費であることから、現時点では指標設定は行わない。 |
|--|